

令和5年度自己評価表

江田島市立能美中学校

中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	現状値	各年度における目標値及び実績値				改善策
				令和4年度	目標	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
基礎的・基本的な知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力を育成する。	①主体的な学びを促進する。	・プロジェクト型学習の考え方を生かし、課題発見・解決学習の各過程を位置づけた単元開発と実践を図る。 ・「毎日ノート」への指導助言を行うことで、自己教育力を育む。	生徒アンケートでの肯定的回答の割合	主体的な姿勢 92.6% 見通しをもった計画 82.4% 課題意識 74.1% (3項目平均 83%)	目標	85%	87%	90%	教務部 どの項目においても、昨年度末より肯定的回答の割合が低下している。生徒アンケート「授業では、自分の考えを積極的に伝えている」という項目においても肯定的評価が 56.5%である。今後の授業改善として授業における課題や計画を生徒に考えさせ明確にさせる場を設ける。また、「毎日ノート」について、自分にとってどのような内容が必要なのかを考えさせ、個々の学力向上に繋がる取組にしていく。
				実績	主体的な姿勢 77.8% 見通しをもった計画 74.1% 課題意識 71.3% (3項目平均 74.4%)				
	②基礎・基本の定着を図る。	・各教科において、基礎・基本定着のための取組を工夫する。 ・単元ごとに到達度を把握し、その改善を図る。	江田島市小中学校学力調査の各教科で目標値を上回った教科数は5教科	1・2学年計 10教科のうち、上回ったのは5教科	目標	5教科	8教科	10教科	教務部 現3学年は、令和5年度全国学力学習状況調査と令和4年度江田島市小中学校学力調査(2学年次)を比較すると、国語・英語は全国との差が小さくなっている。一方、数学は全国との差が大きくなった。数学においては、授業始めの基礎的な内容の繰り返し学習を継続して取り組んでいく。また、学力の定着が不十分な生徒に対して、業間や昼休憩、水曜日の放課後を利用して補充学習を組織的に取り組んでいく。
				実績	令和5年度全国学力学習状況調査(現3学年) 令和4年度江田島市小中学校学力調査(2学年次)				
豊かな心と社会性の育成を図る。	③「時を守り、場を清め、礼を正す」取組を推進する。	・生徒会自治活動を中心として、「aノーチャイム」「b黙動清掃」「c立腰・黙想」「d挨拶」の活性化を図る。	生徒アンケートでの肯定的回答の割合	a ノーチャイム 95.1% b 黙動清掃 89.3% c 立腰・黙想 95.9% d 挨拶 95.1% (4項目平均 93.9%)	目標	95%	98%	100%	生徒指導部 どの項目においても、自治活動が基本となる生徒委員会での活動を充実させる必要がある。特に、ノーチャイム、立腰・黙想、挨拶でポイントが低下している。今後は、これらの項目を重点的な委員会目標に据え、生徒に考えさせながら自主的な取組を仕組んでいく。また、学年別に見ると、1学年のアンケート結果が低いという特徴があるため、教職員が肯定的な評価を行いながら、やりきらせる指導を継続的に行っていく。
				実績	a ノーチャイム 85.3% b 黙動清掃 93.6% c 立腰・黙想 85.2% d 挨拶 85.3% (4項目平均 87.4%)				
	④特別活動の充実を図る。	・学校行事等の目的を再確認し、生徒と共有し、精選と充実を図る。	生徒アンケートや保護者アンケートでの肯定的回答の割合	生徒 93.4% 保護者 95.4%	目標	生徒 98% 保護者 98%	生徒 100% 保護者 100%	生徒 100% 保護者 100%	生徒指導部 生徒アンケートの肯定的回答の割合が昨年度より低下している。これは、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う縦割り合唱コンクールの中止が影響しているのではないかとされる。また、3学年と比較すると1学年のアンケート結果が低い。これは、先輩からの指示で動いており、主体的に活動する場面が少なかったからだと考える。今後は1学期の取組を土台に、委員会や係活動等1学年が主体的に活動できる場面を設定していく。保護者からは非常に高い満足度をいただいております。今後も継続して学校行事の充実を目指していきたい。
				実績	生徒 89.9% 保護者 97.0%				
健やかな体の育成と体力の向上を図る。	⑤体育的活動を充実させ、体力を向上させる。	・保健体育授業科の改善と共に業間運動や体育的行事の充実を図る。 ・部活動指導員を拡充し充実を図る。	「仲間と楽しく体を動かすのが好き」についての生徒の肯定的回答の割合	「運動やスポーツは好きだ」 生徒 73.8%	目標	80%	85%	90%	生徒指導部 アンケート項目を、昨年度の「運動やスポーツは好きだ」から「仲間と楽しく体を動かすのが好き」に変えた結果が現れていると感じる。スポーツは「娯楽」に語源があることを忘れず、体育の授業とスポーツとをうまく調整しながら、生徒に体を動かすことの魅力を伝えていく。
				実績	「仲間と楽しく体を動かすのが好き」 生徒 86.2%				

組織の機能化と業務改善により、やりがいのある職場環境をつくる。	⑥時間外勤務の縮減に向けた業務改善を行う。	・定時退校日の完全実施（水曜日）を図る。 ・行事や会議のスリム化、また、時程の工夫等により、生徒と向き合う時間の確保を行う。	教職員に対する「やりがい」についてのアンケート肯定的回答 在校時間月 80 時間超の人数	教職員 95% のべ 22 人	目標	100% 17 人	100% 13 人	100% 10 人	<u>管理職</u> 教職員アンケートにおいて、「やりがい」の項目の肯定的回答の割合が 88.9%となり、概ねやりがいを感じていることが分かる。また、在校時間月 80 時間超の人数は 0 人であった。今後も、教職員の思いに傾聴したり、各々の目標を達成できるよう適切に助言したりしていく。また、分掌等の進捗状況を確認しながら助言を行い、全教職員が働きやすい環境を実現していく。
					実績	教職員に対する「やりがい」について 88.9% 在校時間月 80 時間超の人数 のべ 0 人			